

公共貨幣

PUBLIC MONEY

政府債務をゼロにする現代版シカゴプラン

山口 薫 Ph.D.

2015年9月10日発売

東洋経済新報社

第1部：債務貨幣システム

- 第1章 経済学とは何か
- 第2章 お金とは何か
- 第3章 日本銀行は必要か
- 第4章 お金はなぜ無から創られるのか
- 第5章 お金はなぜ支配の手段となるのか
- 第6章 国の借金はなぜ増え続けるのか
- 第7章 債務貨幣システムはデット・エンドだ (352ページ、3,800+税)

第2部：公共貨幣システム+

- 第8章 シカゴプラン（貨幣改革）とは何か
- 第9章 公共貨幣システムの誕生
- 第10章 国の借金は完済できる
- 第11章 公共貨幣で輝く未来

第3部：公共貨幣システムへの移行

- 第12章 公共貨幣システムへの移行モデリング
- 第13章 日本国公共貨幣法



著者紹介

山口 薫（やまぐち かおる）

兵庫県淡路島生まれで、現在、淡路島に在住。NPO法人日本未来研究センター理事長（2002～）。岐阜大学大学院工学研究科環境エネルギーシステム専攻 非常勤講師。経済学博士（Ph.D. カリフォルニア大学バークレー校）。

関西学院大学経済学部卒（1969年）。神戸大学大学院博士課程修了。大阪外国語大学（現大阪大学）、カリフォルニア州立大学ヘイワード校、サンフランシスコ大学、ハワイ大学等で教鞭をとり、2004年4月より同志社大学大学院ビジネス研究科教授、2009年同総合政策科学研究科博士課程教授を兼任（～2013年3月）。

世界未来研究学会（WFSF）フェロー、システムダイナミクス学会経済学チャプター元会長、同日本支部元理事。

アマゾン ブックレビューより抜粋

・資本主義はシステムデザインの欠陥か（すばるさん）

この本は私の知的好奇心を満たすに十分すぎる内容です。『国富論』の著者アダムスミスは、市場経済は「神の見えざる手」によって調整されうまくいくんだ！と語りますが、世界大恐慌、リーマンショックといった2つの世界大恐慌によってそれらが 全くの虚構であることが白日のもとにさらされました。資本主義ではバブルや不況、富の偏在、政府の借金の増大も克服できない。その原因は、誰かが借金しなければお金を生めないという「債務貨幣システム」という資本主義システムのデザインに致命的な欠陥があるからだと言著者は指摘します。

そしてそれに代わるべきなのが著者提案の「公共貨幣システム」です。不況・バブルなど景気変動も克服できるし、政府の借金も完済できるし、国民にお金が行き渡るし、社会は平和で安定するしと、読む人をその圧倒的な筆力で本当にそれらが実現できるような気持ちにさせます。

・公共貨幣は世界平和実現の第一歩？（青汁さん）

私はふとしたことから世の中に流通しているお金の量は、過去から現在にいたるまで、どういう仕組みで増えてきたのだろうと疑問を持ち、色々調べる中で、銀行による信用創造とお金の殆ど全てが銀行からの借金であるという事実を知って驚きました。

現在の全ての貨幣が銀行からの利子付きの借金（債務貨幣）であるということは、借金をしてる者全てが無事に利子も払って返済することなど最初から不可能だということ（利子の分の余分のお金はずっと存在しないから）、つまり必ず誰かは犠牲にならなくてはならないシステムで、弱肉強食の世界を作りあげている元凶だと分かりました。

・金融システム改革の処方箋を提示（ポテトチョップさん）

リーマン・ショック後も混乱と低迷が続く世界経済を巡り、現行の金融システムに重大な欠陥があるとして抜本改革への処方箋を示した注目の書である。ひと言でいえば、金融システムの統制を日銀から国会の手に移し、国会が任命する公共貨幣相（仮称）が公共貨幣を発行・管理し（現在は日銀が通貨を発行）、信用秩序のコントロールに当たる、という内容だ。

本書は現在進行中の政府債務危機の本質も抉って意義深い。銀行による信用膨張（バブル化）とその後の信用収縮（バブル瓦解）で好不況がもたらされ、この不況デフレ局面で人の借金も政府の借金も膨張する。カネはカネを呼び、貧富の格差はますます広がる。現行の金融システムは限界状況にあり、根本から変わらなければならない。

時代背景を見据えた、将来に希望の光を投げる経済書である。